

令和5年版

松戸市の火災概要



松戸市消防局

目 次

1. はじめに	P3
2. 火災の現況と最近の動向	P3
3. 出火状況	P3
4. 火災種別ごとの状況	
(1) 建物火災	P5
(2) 車両火災	P7
(3) その他の火災	P7
5. 火災による死傷者の状況	
(1) 火災による死者の状況	P8
(2) 住宅（共同住宅を除く）火災における住宅用火災警報器の設置状況	P11
6. 火災による損害額	P12
7. 出火原因	P13
8. おわりに	P16

※構成比、比率については、小数点以下第一位、第二位を四捨五入しているため合計しても必ずしも 100 とはなりません。

※分母が 0 のため計算できないものは「—」で表示しています。

※出火率（人口 1 万人当たりの出火件数）の算出には、住民基本台帳 令和 5 年 12 月末日現在の人口総数を使用しています。

1. はじめに

松戸市消防局では、令和5年中に松戸市で発生した火災の概要について取りまとめました。火災発生件数については、前年より8件減で、出火率（人口1万人あたりの火災発生件数）を比較すると、2.1であり、昨年の2.3よりも減少する数値となりました。

2. 火災の現況と最近の動向

令和4年と比較すると、出火件数は8件（△7.0％）減少しており、うち、建物火災が1件（△1.4％）減少、車両火災は増減なし（0.0％）、その他の火災は7件減少（△22.6％）しています。また、死者は3名（50.0％）と前年より1名増加しており、負傷者は18名（△18.2％）と4名減少しています。（第1表参照）

3. 出火状況

第1表 火災の状況

区 分	令和5年 (A)	比率 (%)	令和4年 (B)	比率 (%)	増減 (C) (A)-(B)	増減率(%) (C)/(B) ×100
出 火 件 数 (件)	106	100	114	100	△ 8	△ 7.0
建 物 火 災	72	67.9	73	64.0	△ 1	△ 1.4
車 両 火 災	10	9.4	10	8.8	0	0.0
その他の 火 災	24	22.6	31	27.2	△ 7	△ 22.6
焼 損 棟 数 (棟)	89	100	107	100	△ 18	△ 16.8
全 焼	10	11.2	14	13.1	△ 4	△ 28.6
半 焼	4	4.5	5	4.7	△ 1	△ 20.0
部 分 焼	22	24.7	14	13.1	8	57.1
ぼ や	53	59.6	74	69.2	△ 21	△ 28.4
建物焼損床面積 (㎡)	1,100		1,728		△ 628	△ 36.3
建物焼損表面積 (㎡)	121		58		63	108.8
死 者 (人)	3		2		1	50.0
負 傷 者 (人)	18		22		△ 4	△ 18.2
り 災 世 帯 数 (世帯)	75	100	79	100	△ 4	△ 5.1
全 損	11	14.7	15	19.0	△ 4	△ 26.7
半 損	12	16.0	4	5.1	8	200.0
小 損	52	69.3	60	75.9	△ 8	△ 13.3
り 災 人 員 (人)	139		174		△ 35	△ 20.1
損 害 額 (千円)	128,037	100	234,535	100	△ 106,498	△ 45.4
建 物 火 災	115,836	90.5	220,760	94.1	△ 104,924	△ 47.5
車 両 火 災	1,461	1.1	12,488	5.3	△ 11,027	△ 88.3
そ の 他 の 火 災	10,740	8.4	900	0.4	9,840	1093.3
爆 発	0	0.0	387	0.2	△ 387	△ 100
出 火 率	2.1		2.3		△ 0.2	△ 7.5

(1) 建物火災は全火災の67.9%

令和5年中の建物火災は72件で、その構成比をみると、全火災の67.9%と最も高い比率を占めています。(第1表参照)

(2) 火災件数は冬季、損害額は秋季から冬季が多い

令和5年中の出火件数を四季別にみると、火気を使用する機会の多い秋季及び冬季の出火件数が多く、冬季の損害額が多くなっています。(第2表参照)

第2表 四季別出火状況

年 別 季 別	令和5年				令和4年			
	出火件数 (件)	構成比	損害額 (千円)	構成比	出火件数 (件)	構成比	損害額 (千円)	構成比
春季(3月~5月)	26	25%	28,229	22%	26	23%	124,808	53%
夏季(6月~8月)	21	20%	34,812	27%	30	26%	33,967	14%
秋季(9月~11月)	31	29%	19,320	15%	23	20%	38,311	16%
冬季(12月~2月)	28	26%	45,676	36%	35	31%	37,449	16%
合 計	106	100%	128,037	100%	114	100%	234,535	100%

(3) 初期消火は汲み置き等の水によるものが多い

令和5年中の初期消火の方法についてみると、汲み置き等の水を使用したものが43件(41%)で、初期消火が行われたもの67件(63%)の中で最も高い比率になっており、次いで消火器14件(13%)となっています。うち、初期消火で効果があったものは45件(67%)となっていることから、初期消火の重要性が伺えます。

一方で初期消火が行われなかったものは、39件(37%)で初期消火の実施割合は昨年に比べ高くなっておりませんが、更なる広報等が必要です。(第3表参照)

第3表 初期消火の実施状況

種別 年別	消火器			汲み置き等			その他			初期消火なし		合計	
	件数	構成比	効果あり	件数	構成比	効果あり	件数	構成比	効果あり	件数	構成比	件数	構成比
令和元年	15件	15%	9件	40件	39%	31件	13件	13%	8件	35件	34%	103件	100%
令和2年	15件	15%	12件	45件	44%	29件	10件	10%	9件	32件	31%	102件	100%
令和3年	25件	22%	10件	34件	30%	32件	11件	10%	6件	45件	39%	115件	100%
令和4年	17件	15%	16件	40件	35%	24件	14件	12%	8件	43件	38%	114件	100%
令和5年	14件	13%	8件	43件	41%	30件	10件	9%	7件	39件	37%	106件	100%

4. 火災種別ごとの状況

(1) 建物火災

令和5年中の**建物火災の件数は72件**で、昨年よりも1件減少しており、全焼、半焼及びぼやは減少していますが、部分焼による焼損棟数は増加しています。**(第1表参照)**

ア 建物火災による焼損床面積が多いのは木造建物

火元の焼損棟数は、木造が22棟(30.6%)、耐火造が30棟(41.7%)となっており、焼損床面積は、木造が588㎡、耐火造が374㎡、損害額は、木造が40,565千円、耐火造が53,819千円、防火造が10,277千円の順となっています。

よって木造は件数、焼損床面積及び損害額も大であり、耐火造は件数及び損害額が多いものの焼損床面積は比較的少なく、防火造は件数が少ないものの損害額は大であることがわかります。**(第4表参照)**

第4表 建物火災の構造別損害状況

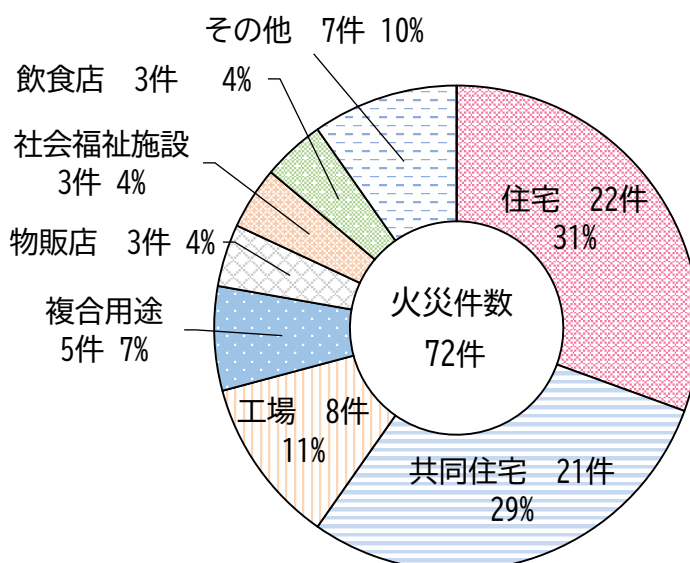
年 別 構造別	火元棟数（件）				令和5年				
	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	出火 件数 (件)	焼損床面積(㎡)		損害額（千円）	
						合計	1 件 当たり	合計	1 件 当たり
木 造	32	23	34	28	22	588	26.7	40,565	1,843.9
耐 火 造	18	24	31	24	30	374	12.5	53,819	1,794.0
防 火 造	6	10	3	9	6	126	21.0	10,277	1,712.8
準耐火木造	2	0	1	1	1	0	0.0	32	32.0
準耐火非木造	5	5	6	5	7	6	0.9	4,719	674.1
その他・不明	8	6	8	6	6	8	1.3	6,424	1,070.7
建 物 全 体	71	68	83	73	72	1,102	15.3	115,836	1,608.8

第1図 建物火災の火元建物用途別状況

イ 火元建物の用途別状況

建物火災の出火件数を火元建物の用途別にみると**住宅火災が最も多く**、住宅及び共同住宅が全体の60%を占めています。

次いで、工場が11%、複合用途が7%となっていることから、常日頃から人が居住するものや人の出入りが多い用途からの出火が多いことが伺えます。**(第1図参照)**



ウ 建物火災の過半数はばや災

令和5年中の建物火災における損害額及び焼損床面積の段階別にみると、損害額では1件の火災につき**1万円未満の損害のものが24件であり**、全体の33.3%を占めています。

1件あたりの損害額で1,000万円以上のものは、3件(4.2%)となっています。

また、**焼損床面積10㎡未満の建物火災は52件で**、全体の72.2%を占めており、建物火災の多くは早い段階で消し止められています。

1件あたりの焼損床面積で100㎡以上のものは、2件(2.8%)となっています。**(第5表参照)**

第5表 建物火災の損害額及び焼損床面積の段階別出火件数

損 害 額	出火件数 (件)	焼 損 床 面 積	出火件数 (件)
千円未満	10	10㎡未満	52
千円以上 1万円未満	14	20㎡未満	4
1万円以上 5万円未満	14	30㎡未満	2
5万円以上 10万円未満	2	40㎡未満	2
10万円以上 50万円未満	8	50㎡未満	4
50万円以上 100万円未満	3	100㎡未満	6
100万円以上 500万円未満	14	150㎡未満	1
500万円以上 1,000万円未満	4	200㎡未満	1
1,000万円以上	3	200㎡以上	0
合 計	72	合 計	72

エ 建物火災はその他、こんろ、たばこによるものが多い

令和5年中の建物火災の主な原因は、**その他が13件**(18.1%)と最も多く、次いで、**こんろ11件**(15.3%)、**たばこ10件**(13.9%)、**配線器具が8件**(11.1%)、によるものの順となっています。**その他の内訳**は、トースターからの出火や植物油脂の付着したダスターを乾燥機で乾燥させたもの等、様々です。

放火は4件(5.6%) **放火の疑いは3件**(4.2%)の**合計7件**と昨年の**8件**に対し減少しています。

過去5年間を比較すると、たばこ、こんろ、放火が上位であったのに対して、**配線器具、電気機器による火災が増加**し、上位に入っています。これらは電子レンジの使用法の誤りや、互換性のない充電器やリチウム電池を使用したことによるもの、古くなった機器や不調のある機器を使用したことによるもの等がありますので、使用前に取扱説明書を確認する、互換性のある機器を使用する、古い機器や不調のある機器の使用はしないこと等が必要となります。**(第6表参照)**

第6表 建物火災の主な出火原因

順位	令和元年		順位	令和2年		順位	令和3年		順位	令和4年		順位	令和5年	
	原因	件数		原因	件数		原因	件数		原因	件数		原因	件数
1位	こんろ	18	1位	こんろ	18	1位	こんろ	14	1位	たばこ	13	1位	その他	13
2位	放火	10	2位	たばこ	14	2位	たばこ	12	2位	こんろ	9	2位	こんろ	11
	たばこ	10	3位	不明	9		電気機器	12		配線器具	9	3位	たばこ	10
4位	不明	8	4位	電気機器	7	4位	放火	8	4位	電気機器	8	4位	配線器具	8
5位	その他	6	5位	その他	4		その他	8		その他	7	5位	不明	6
6位	電灯・電話等の配線	5	6位	ストーブ	3	6位	放火の疑い	7	6位	不明	4	6位	電気機器	4
	放火の疑い	5		配線器具	3		配線器具	7		放火	4		放火	4
8位	配線器具	3	9位	放火	3	8位	不明	6	9位	放火の疑い	4	7位	マッチ・ライター	3
9位	ストーブ	2		マッチ・ライター	2	9位	ストーブ	4		ストーブ	3		電灯・電話等の配線	3
10位	ライター	2	10位	火あそび	2	10位	灯火	2	10位	火あそび	2	10位	放火の疑い	3
										天災	2		ストーブ	2
										電灯・電話等の配線	2		電気装置	2
										灯火	2		炉	2

(2) 車両火災

令和5年中の**車両火災の出火件数は10件**で前年と同じ件数になっており、損害額は前年の12,488千円に対し11,027千円減少しています。これは令和4年の火災で損害額が4,000千円以上の火災が2件発生したことによるものです。

出火原因としては、電気系統、配線器具からの出火によるもの等があります。**(第7表参照)**

第7表 車両火災の状況

	令和5年	令和4年	増減数
出火件数(件)	10	10	0
損害額(千円)	1,461	12,488	△11,027

(3) その他の火災

令和5年中の**その他の火災の出火件数は24件**で、前年に比べ7件減少しています。

主な出火原因は、たばこと放火の疑いによるものが5件と多く、次いで放火3件となっていることから、敷地内には燃えやすいものを置かない、監視カメラを設置する等の放火されにくい環境作りが必要であることが伺えます。また、たばこや線香等の屋外における火の取扱いには注意が必要です。**(第8表参照)**

第8表 その他の火災の内訳

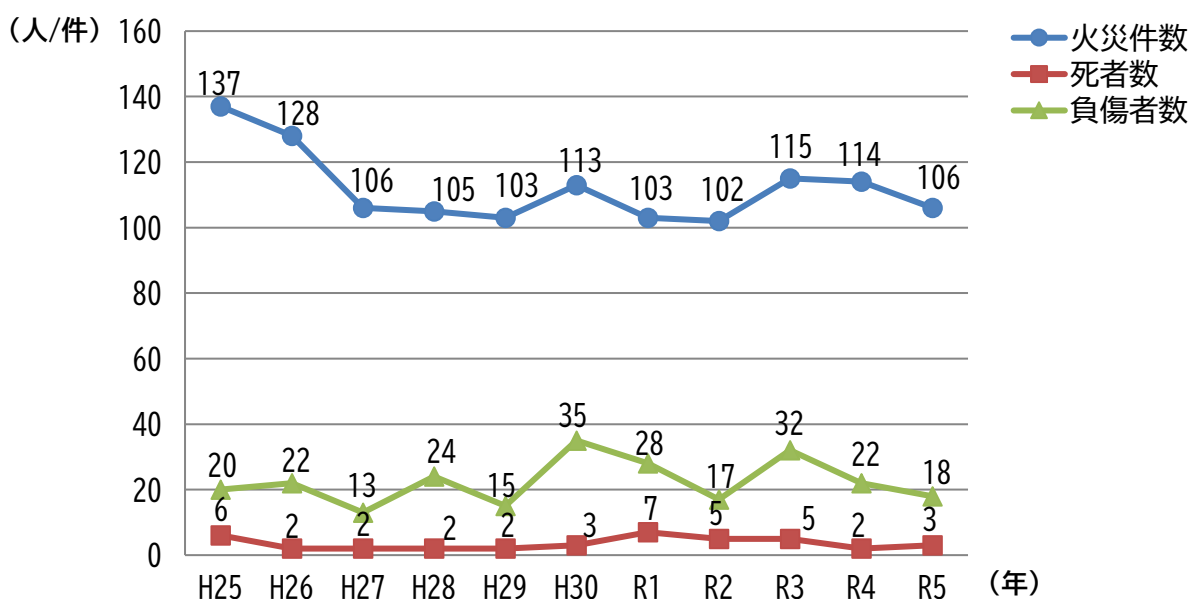
出 火 箇 所		令和5年		令和4年	
		出火件数 (件)	構成比	出火件数 (件)	構成比
道路・ 空地等	敷 地 内	3	12.5%	5	16.1%
	公 園	1	4.2%	4	12.9%
	河 川 敷 等	2	8.3%	1	3.2%
	軌 道 敷	0	0.0%	1	3.2%
	道 路	1	4.2%	3	9.7%
	墓 地	1	4.2%	4	12.9%
	空 地	1	4.2%	3	9.7%
	ごみ集積所	4	16.7%	3	9.7%
そ の 他		11	45.8%	7	22.6%
出火箇所合計		24	100.0%	31	100.0%
た ば こ		5	29.4%	5	25.0%
放 火 の 疑 い		5	29.4%	5	25.0%
放 火		3	17.6%	7	35.0%
電 柱 類		2	11.8%	2	10.0%
その他の裸火		2	11.8%	1	5.0%
出火原因合計		17	100.0%	20	100.0%

5. 火災による死傷者の状況

(1) 火災による死傷者の状況

令和5年中の火災による死者数は3人で前年に比べ1人増加しており、負傷者は18人と前年に比べ4人減少しています。そのうち、共同住宅及び住宅で多く負傷者が発生しています。負傷者が発生した火災14件のうち、12件で初期消火が実施されていますが、初期消火時に負傷することもありますので注意が必要です。(第2図参照)

第2図 火災による死傷者と火災件数の推移



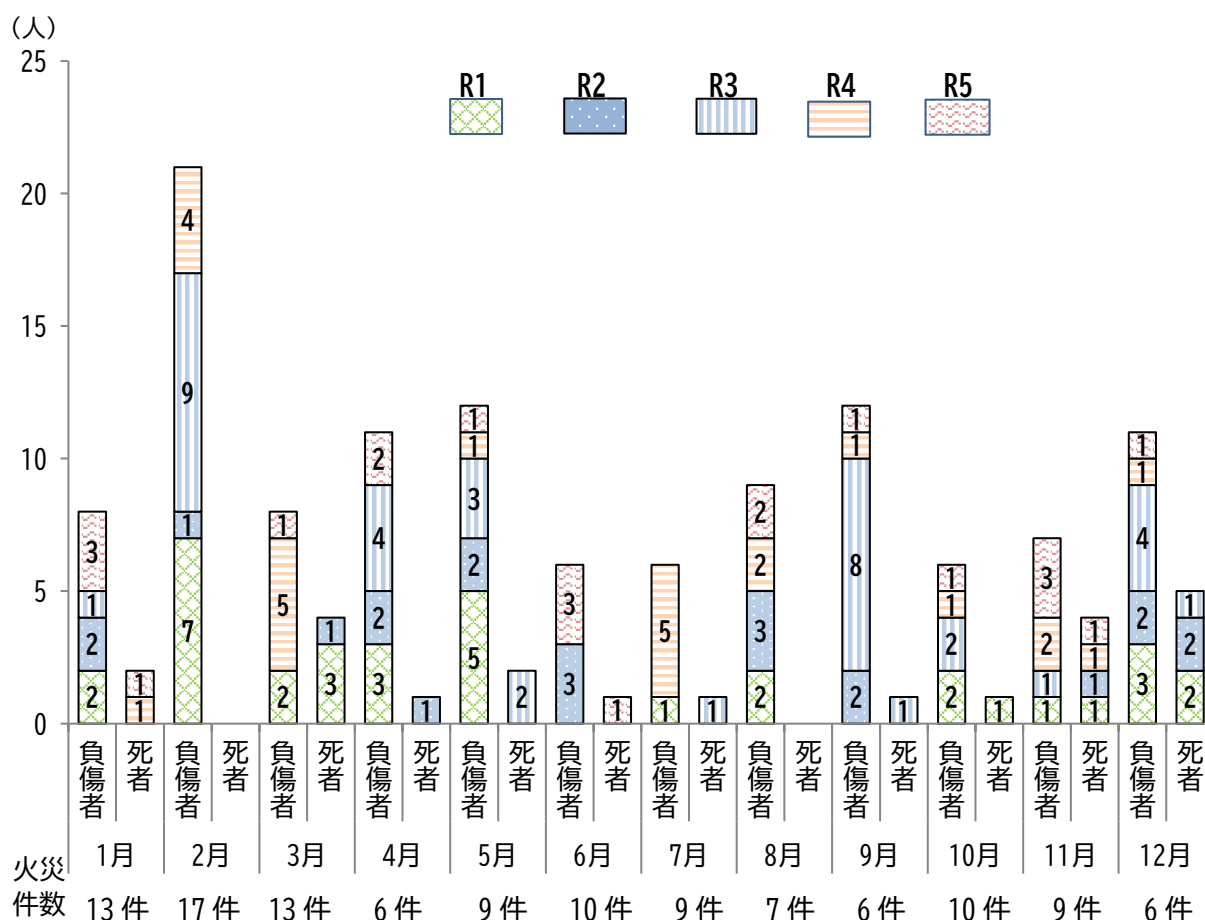
ア 死傷者の月別発生状況

令和5年中の死者の発生状況を月別にみると、1月、6月、11月と通年発生しており、負傷者の発生状況を月別にみると、1月、3月、4月、5月、6月、8月、9月、10月、11月、12月と通年発生しています。

過去5年間でみると死者は12月が5人、11月と3月が4人と**火気を使用する機会が多い時期**に多く、負傷者は2月が21人、5月と9月が12人、4月と12月が11人と季節に関係なく発生していますので、通年を通して注意が必要となります。

(第3図参照)

第3図 月別の火災による死傷者発生状況



イ 死傷者の時間帯別発生状況

令和5年中の死者の発生時間帯は2時から4時に2人と、20時から22時に1人と就寝中に発生しています。

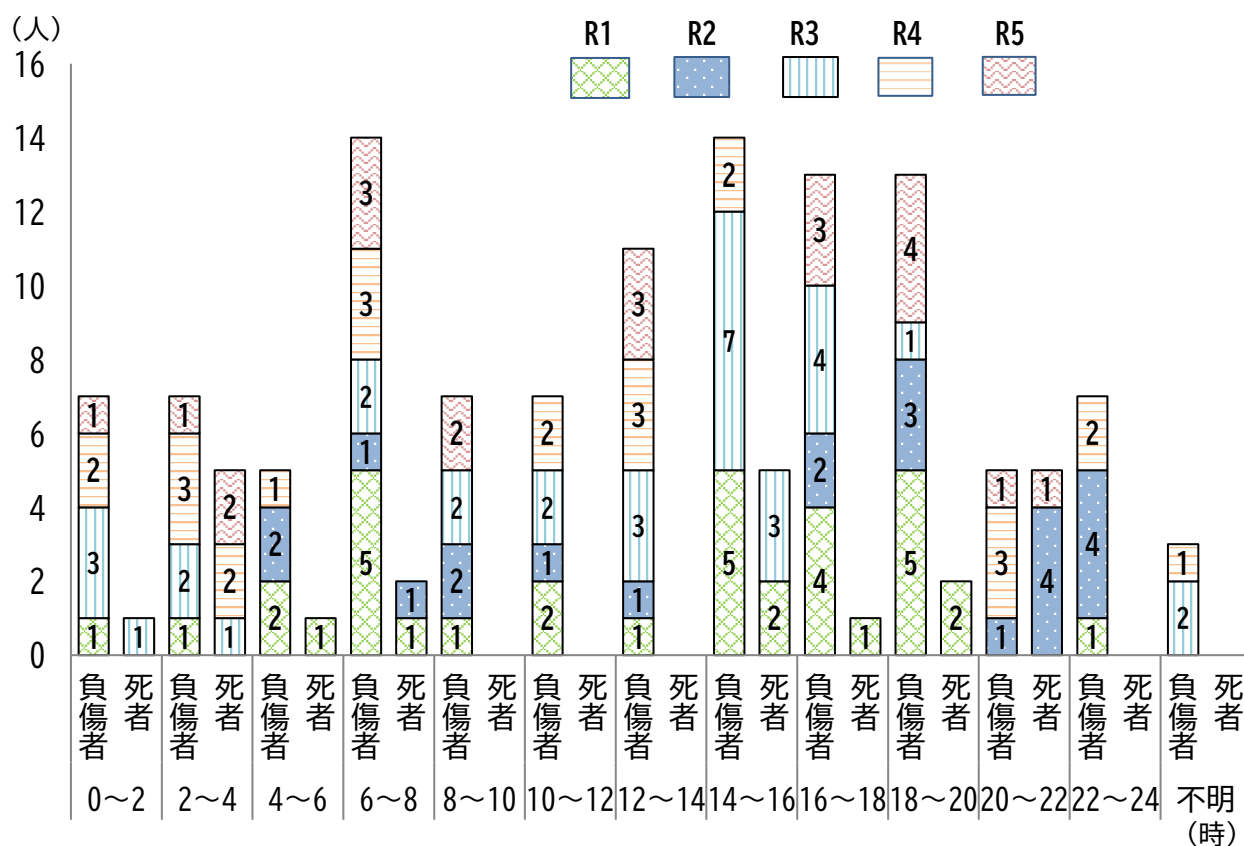
負傷者の発生時間帯は18時から20時に4人と、6時から8時、12時から14時、16時から18時にそれぞれ3人と、時間帯に関係なく発生しています。

過去5年間でみると、死者は2時から4時、14時から16時、20時から22時にそれぞれ5人と、夕食準備時の火の取り扱い、就寝時間帯に多く発生しています。

負傷者は6時から8時、14時から16時にそれぞれ14人、18時から20時に13人と、時間帯に関係なく発生しています。

このことから夕食準備時の火の取り扱い、就寝中による逃げ遅れ等に注意する必要があります。(第4図参照)

第4図 時間帯別火災による死傷者発生状況の推移

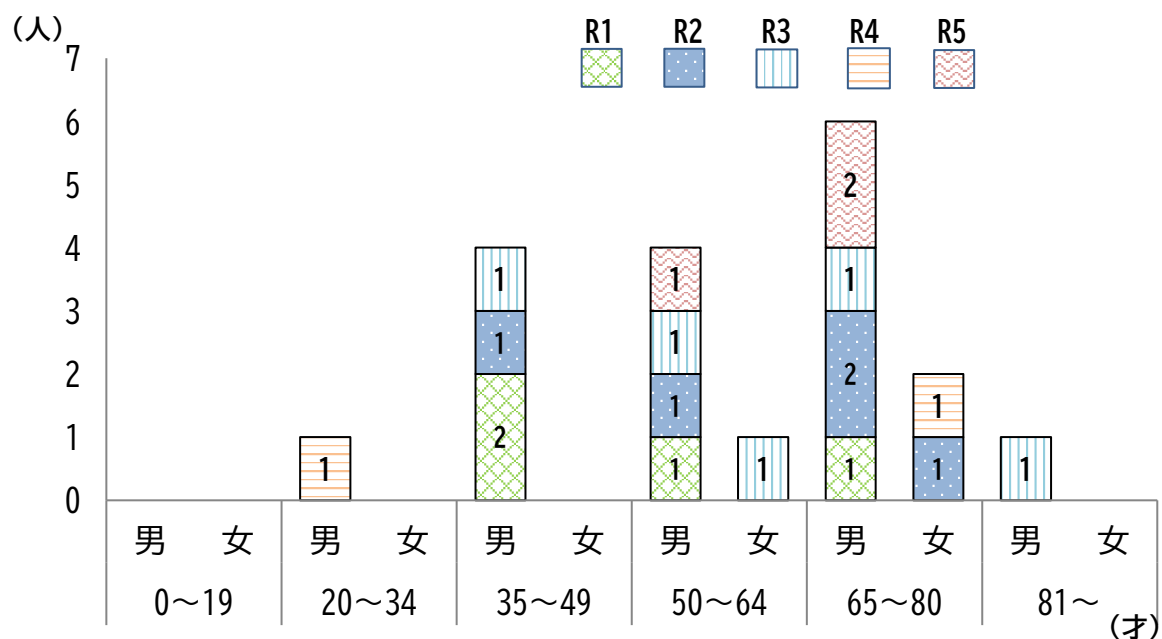


ウ 死者の年齢別発生状況

令和5年中の死者を年齢別にみると、65才から80才の高齢者が2人、50才から64才が1人で、主な死因は一酸化炭素中毒によるものとなっており、就寝中や身体不自由により発生しています。

過去5年間でみると65才から80才の年齢層で8人と多く発生しており、高齢者の割合が高いことが伺えます。(第5図参照)

第5図 火災による男女年齢別死者発生状況

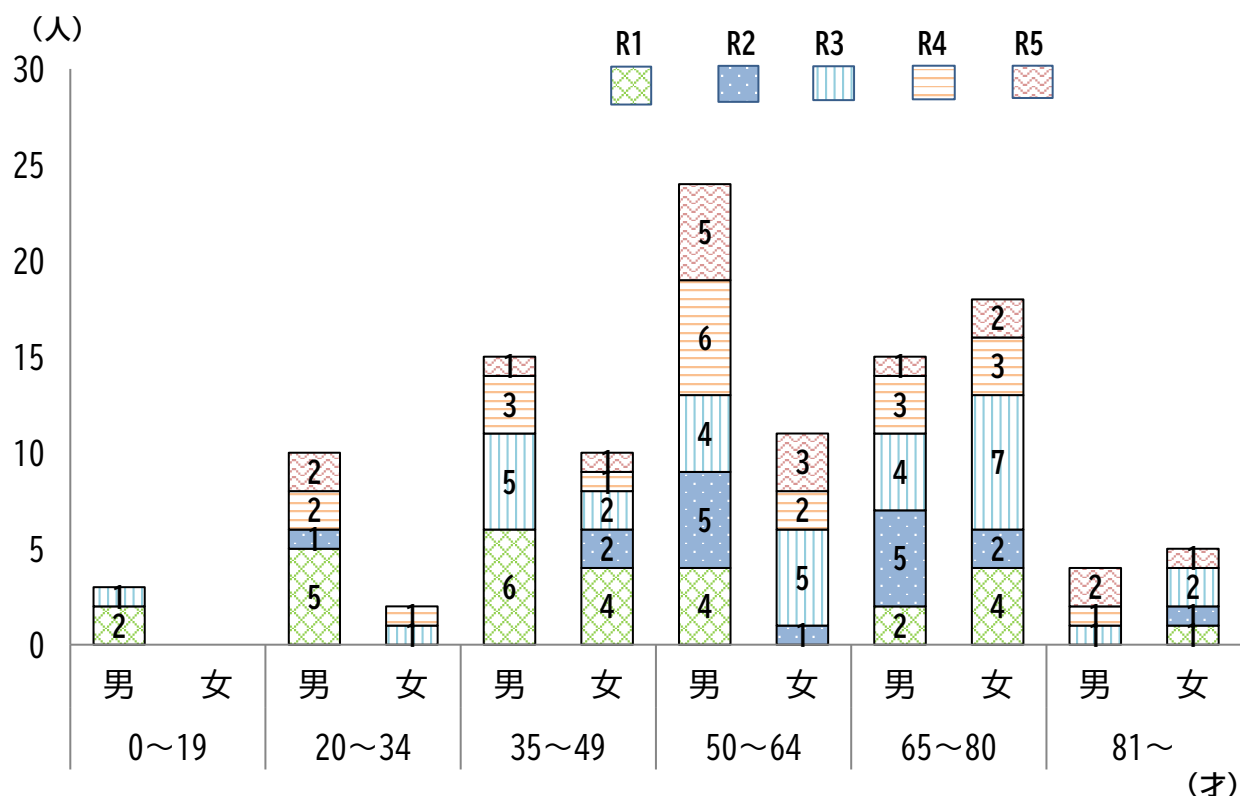


エ 負傷者の年齢別発生状況

令和5年中の負傷者を年齢別にみると、50才から64才が8人（44.4%）、65才から80才及び81才以上の高齢者がそれぞれ3人（16.7%）、となっており、高齢者の割合が高いことが伺えます。18人中、応急消火義務者が12人（66.7%）で、5人が消火中、4人が避難中に負傷しています。

年齢や性別を問わず負傷者は発生していますが、初期消火や避難をする際には注意が必要です。（第6図参照）

第6図 火災による男女年齢別負傷者発生状況



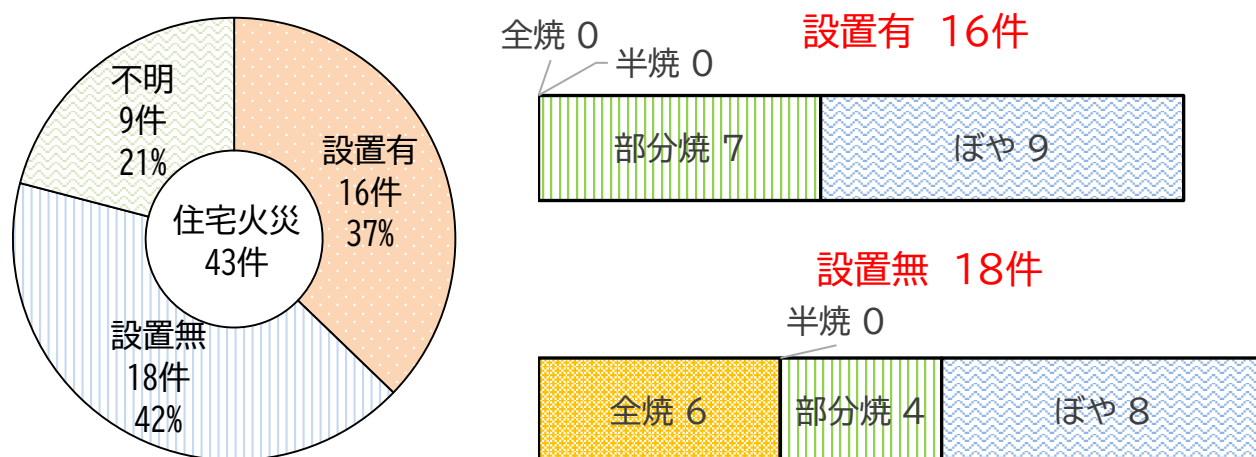
(2) 住宅及び共同住宅火災における住宅用火災警報器の設置状況

令和5年中の住宅用火災警報器の設置が必要な住宅及び共同住宅火災43件のうち、**住宅用火災警報器が設置されていたのは16件でした。**

住宅用火災警報器が設置されている住宅等は16件中、全焼0件、半焼0件、部分焼7件、ぼや9件でしたが、設置されていない住宅等は18件中、全焼6件、半焼0件、部分焼4件、ぼや8件と、住宅用火災警報器が設置されている住宅等は、全焼、半焼がありませんでした。

このことから、住宅用火災警報器を設置することは、火災を早期に発見でき、被害の軽減に効果があることがわかります。（第7図参照）

第7図 住宅火災における住宅用火災警報器の設置状況

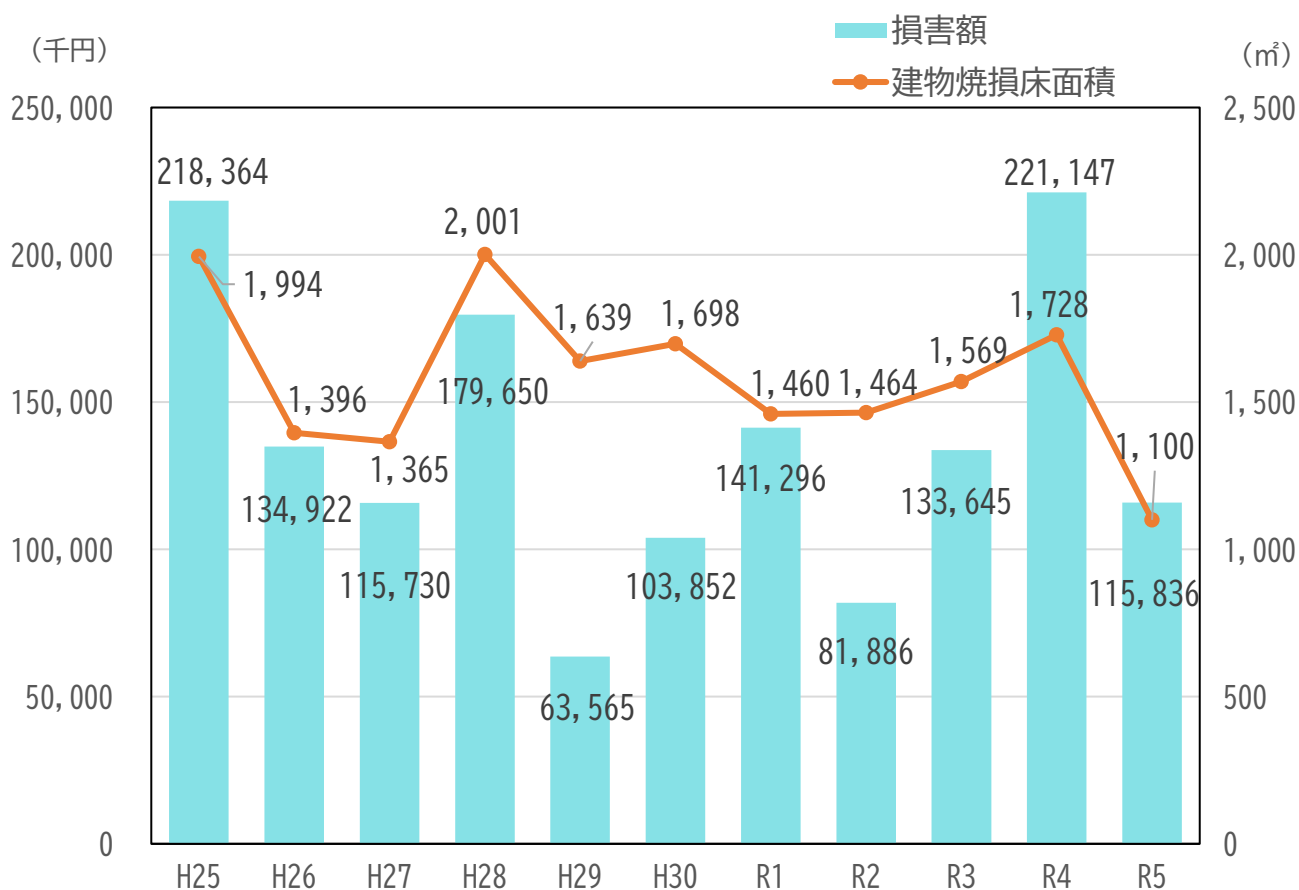


6. 火災による損害額

松戸市消防局では、火災原因の調査とあわせて火災の損害についても調査を行っており損害額を算定しています。

令和5年中の損害額は115,836千円で、前年に比べて105,311千円減少し、焼損床面積も1,100㎡で628㎡減少しました。火災件数が減少していることが要因と考えられます。(第8図参照)

第8図 火災による損害額と建物焼損床面積の推移



7. 出 火 原 因

(1) 令和5年中の出火原因

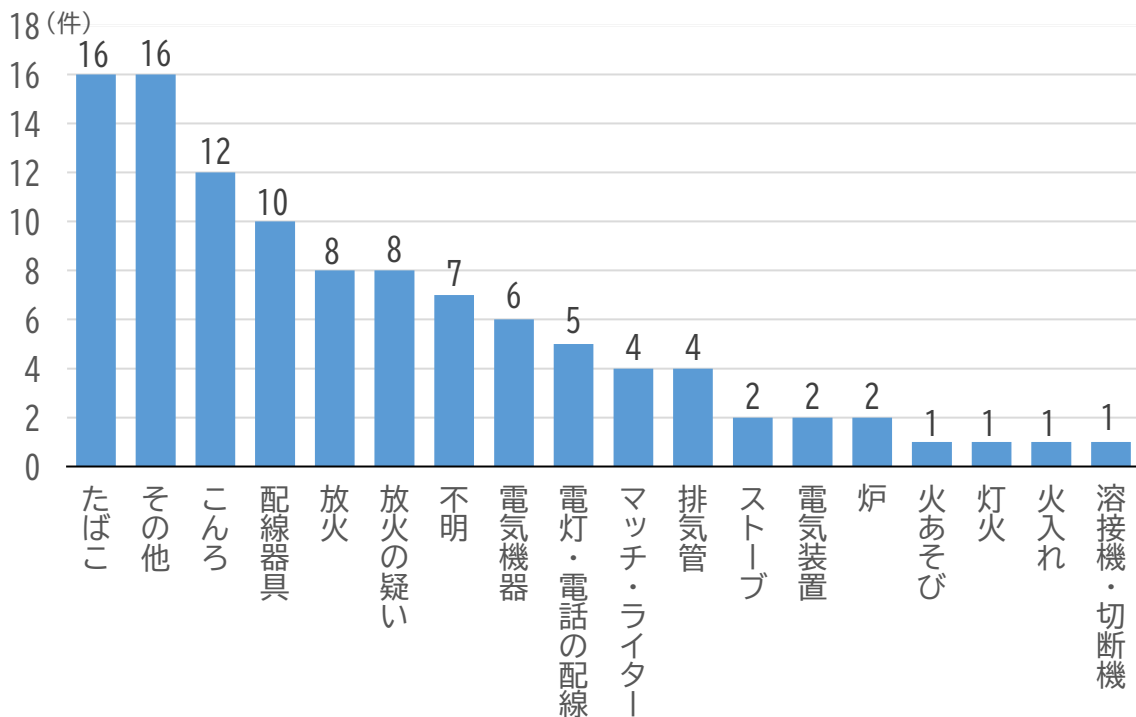
令和5年中の総出火件数106件のうち、**失火による出火件数は79件(全体の74.5%)**であり、失火の多くは取り扱いの不注意や維持管理不足から発生しています。

また、出火原因別にみると、放火・放火の疑い、たばこ、その他がそれぞれ16件(15.1%)、こんろ12件(11.3%)の順となっています。

例年上位を占めている放火・放火の疑い、たばこ、こんろによる火災には、引き続き注意が必要です。**(第9図参照)**

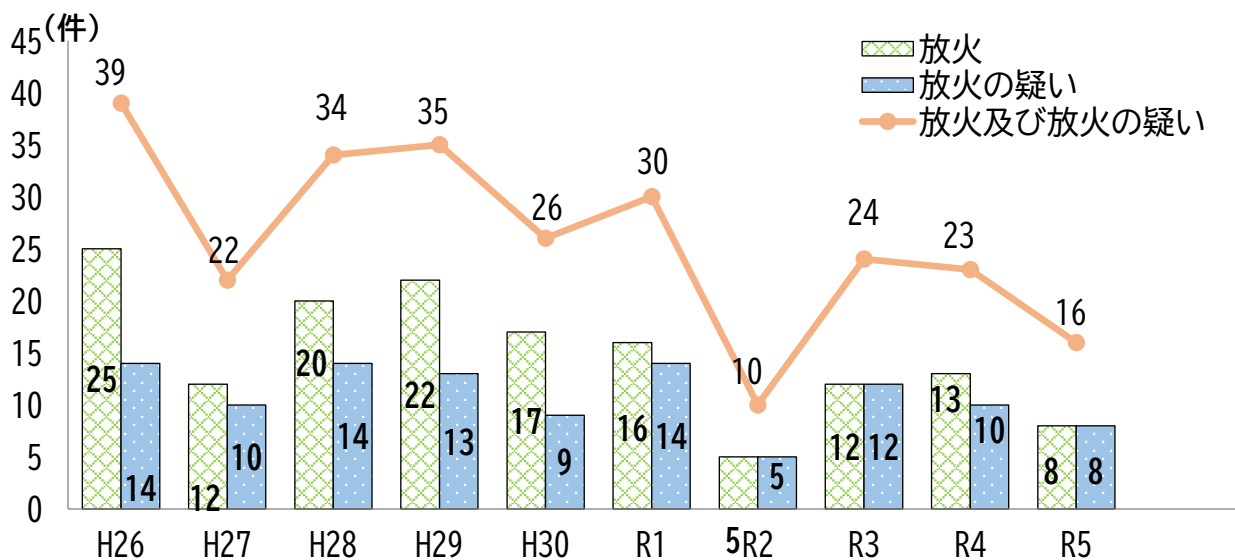
第9図 主な出火原因別の出火件数

(2) 「放火」及び「放火の疑い」による火災の状況



令和5年中の**放火は8件(7.5%)**で、**放火の疑いは8件(7.5%)**であり、放火と放火の疑いを合わせると16件(15.1%)となり、前年から7件減少しており、10年間の平均は25.9件のため、平均を下回っていることがわかります。**(第10図参照)**

第10図 放火及び放火の疑いによる火災件数の推移



(3) 「放火」及び「放火の疑い」による損害の状況

令和5年中の放火と放火の疑いを火災種別にみると、**放火による建物火災が4件、車両火災が1件、その他の火災が3件、放火の疑いによる建物火災が3件、車両火災が0件、その他の火災が5件**となっています。

放火及び放火の疑いを発火源別にみると、**ライターまたはマッチによるものが9件、何らかの火源が6件**となっています。焼損面積を前年と比較してみると、床面積は105㎡減少、表面積は21㎡増加しています。放火及び放火の疑いによる損害額は1,238千円減少しています。**(第9表参照)**

第9表 放火及び放火の疑いによる火災の損害状況

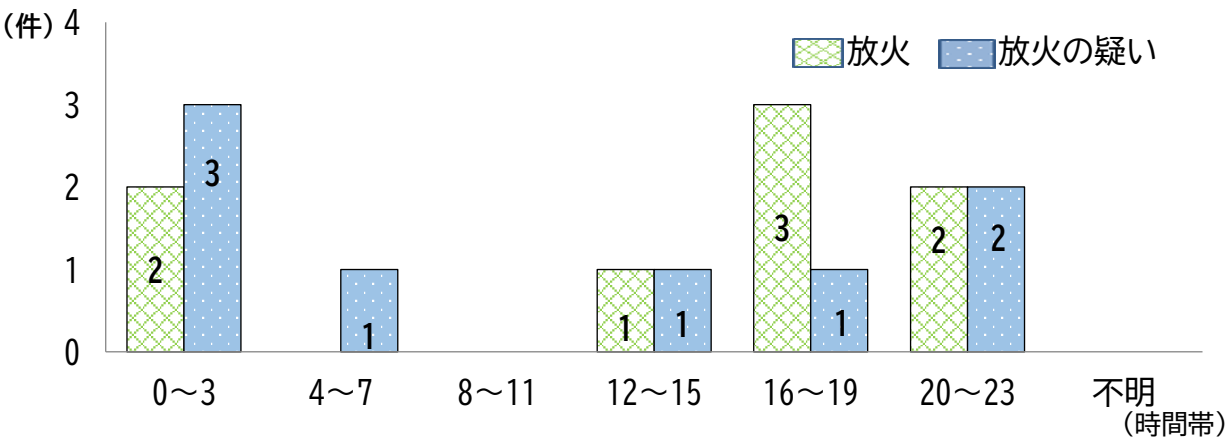
区 分	放火			放火の疑い			放火と放火の疑いの合計		
	令和5年	令和4年	増減数	令和5年	令和4年	増減数	令和5年	令和4年	増減数
出火件数(件)	8	13	△5	8	10	△2	16	23	△7
建物火災	4	4	0	3	4	△1	7	8	△1
車両火災	1	1	0	0	0	0	1	1	0
その他の災	3	8	△5	5	6	△1	8	14	△6
主な発火源別出火件数(件)	8	12	△4	8	4	4	16	16	0
ライター又はマッチ	5	9	△4	4	4	0	9	13	△4
何らかの火源	2	2	0	4	0	4	6	2	4
火のついた紙	0	1	△1	0	0	0	0	1	△1
こんろの火源	1	0	1	0	0	0	1	0	1
建物焼損床面積(㎡)	41	143	△102	174	177	△3	215	320	△105
建物焼損表面積(㎡)	3	16	△13	37	3	34	40	19	21
損害額(千円)	4,538	5,478	△940	5,495	5,793	△298	10,033	11,271	△1,238
建物	4,333	4,619	△286	5,119	5,106	13	9,452	9,725	△273
収容物	125	575	△450	373	669	△296	498	1,244	△746
車両	80	141	△61	0	0	0	80	141	△61
その他	0	143	△143	3	18	△15	3	161	△158

(4) 「放火」及び「放火の疑い」による時間帯別の状況

令和5年中の放火と放火の疑いを時間帯でみると、0時から3時に5件、16時から19時と20時から23時にそれぞれ4人ずつと就寝時間帯に多いことがわかります。

このことから、家の周りに燃えやすいものを置かない、センサーライトや防犯カメラを設置する等の対策も必要となります。**(第11図参照)**

第 1 1 図 放火及び放火の疑いによる時間帯別火災件数



(5) 「たばこ」による火災の状況

令和5年中のたばこによる火災は16件で主な出火原因のひとつとなっており、全火災(106件)の15.1%を占めています。

たばこによる火災の主な経過別出火状況をみると、不適当なところへ捨て置くが14件(88%)であり、実に半数以上を占めています。

焼損面積は、床面積が112㎡、表面積は9㎡、建物損害額は9,504千円で、前年と比較すると6,927千円増加しています。

たばこによる火災の発生経過をみると「不適当なところへ捨て置く」が最多であることから、喫煙者のモラルの向上及び喫煙管理を徹底することで発生を抑えることができると考えられます。(第10表参照)

第10表 たばこによる火災の損害状況

区 分	た ば こ				
	令和5年	構成比	令和4年	構成比	増減数
出 火 件 数 (件)	16	100%	18	100%	△ 2
建 物 火 災	10	63%	13	72%	△ 3
車 両 火 災	1	6%	0	0%	1
そ の 他 の 火 災	5	31%	5	28%	0
主 な 経 過 別 出 火 件 数 (件)	16	100%	18	100%	△ 2
不適当なところへ捨て置く	14	88%	14	78%	0
火 源 転 倒 ・ 落 下	2	13%	2	11%	0
残り火の処理が不十分	0	0%	1	6%	△ 1
そ の 他	0	0%	1	6%	△ 1
建 物 焼 損 床 面 積 (㎡)	112		38		74
建 物 焼 損 表 面 積 (㎡)	9		20		△ 11
そ の 他 焼 損 面 積 (㎡)	0		2		△ 2
建 物 損 害 額 (千円)	9,504		2,577		6,927
車 両 損 害 額 (千円)	0		0		0
そ の 他 損 害 額 (千円)	0		44		△ 44

(6) 「こんろ」による火災の状況

令和5年中の**こんろによる火災**は12件で、全火災件数106件の11.3%で、焼損面積及び損害額は前年と比較すると高い比率を示しています。

原因のほとんどが**消し忘れ**によるものであり、ガスこんろについては、平成21年10月から全てのバーナーに、過熱防止装置、立ち消え安全装置の設置が義務付けられていますが、それ以前のものを使用していることもあるため、火を使用している時はその場を離れないことが必要となります。また、グリル内の清掃をせずに堆積した油カス等に引火して火災になることも多いので、グリル内の定期的な清掃を心がけましょう。(第

11表参照)

第11表 こんろによる火災の損害状況

区 分	こ ん ろ				
	令和5年	構成比	令和4年	構成比	増減数
出 火 件 数 (件)	12	100%	9	100%	3
建 物 火 災	11	92%	9	100%	2
そ の 他 火 災	1	8%	0	0%	1
種 類 別 出 火 件 数 (件)	12	100%	8	100%	4
ガ ス こ ん ろ	12	100%	8	100%	4
電 気 こ ん ろ	0	0%	0	0%	0
ア ル コ ール こ ん ろ	0	0%	0	0%	0
経 過 別 出 火 件 数 (件)	12	100%	9	100%	3
消 し 忘 れ	7	58%	3	33%	4
引 火 す る	3	25%	1	11%	2
過 熱 す る	1	8%	1	11%	0
そ の 他	1	8%	4	44%	△ 3
建 物 焼 損 床 面 積 (㎡)	112		12		100
建 物 焼 損 表 面 積 (㎡)	1		0		1
損 害 額 (千円)	9,504		1,294		8,210

8. お わ り に

今後も、松戸市の火災の概要について情報を発信することにより、当市の火災予防を図る上での参考資料として、広く活用されることを願います。



守りたい
未来があるから
火の用心



令和6年6月作成